

長徳寺の由来・縁起

当山は、寺伝によると今から1380年余り前 推古天皇（593～628）の御宇、大内家の先祖百済国聖明王の第三皇子琳聖太子の開創と伝う。太子が日本に帰化、鳴谷の地を通られた時、百済国より奉持したもう一寸八分（約5.4センチ）の観音の尊像を一字の宝殿に安置し奉れり。像は現在不明なり。精舎を建立し、長徳と号し数多の庄園を寄付し給うと伝えられる。

その後、安阿弥なる者来たりて、霊仏を粗末にしては、恐れ多いとして、一尺八寸（約54センチ）の十一面観世音の像を彫刻安置せるのが今の本尊なり。



後に不動尊・毘沙門天を彫刻、本尊の左右に安置す。

室町時代、防長守護職大内家 24 代大内弘世公が開創された当国（周防の国）巡拝三十三観音霊場の第九番札所となり、その後、大内家代々信仰ありて、伽藍を修補し給う。

寛永元年（1624）正月六日回祿（火災）に遭いたり。

寺僧身の危険をも顧みず三尊を守護し奉りたり。

村民茅茨（ぼうし=かやといばら）のささやかな建物に三尊安置し奉る事凡そ七十年、もと本堂は島田川を隔てた古観音という所でありしが、元禄二年（1689）当村の僧、黙室和尚が、霊場の荒廢を歎き再興の大願を發願、四方に勸化し今の地に移したり。

正徳元年（1711）領主清水元周、信仰篤く祈願所として浄財を寄付したり。

文久三年（1863）清水親春の命により陪臣難波伝兵衛が、当寺の境内に郷学「慕義塾」を設け、講師を招聘し領内士民に文武（銃陣訓練）の教育を開始したり。

塾に集まる者百数十名、膳所藩士（滋賀県）からも馳せ参じたり。

明治三年（1870）廃仏毀釈により本寺は溪月院に合併し、寺号を廢したが、同十三年（1880）三月、西庄の観音堂を破却して、その跡地に復旧再興したり。

三月十八日には「長徳寺市」と呼んで遠近より善男善女の参詣絶えず。

宗旨	曹洞宗（禅宗）
本山	福井県 永平寺 神奈川県 総持寺
本尊	十一面観世音菩薩（鳴谷観音） 鎌倉時代の仏師 安阿弥の作と伝えられる（安阿弥とは仏師快慶の別名）
ご開帳	本尊は秘仏であり20年に一度のご開帳、前々回は平成5年（1993） 前回は平成25年（2013）次回は平成45年（2033）となる
脇立尊像	不動明王 毘沙門天
縁日	江戸時代、文化11年（1814）に農具市 を興行、これより毎年大般若会修業との 記録あり
慕義塾	元治元年（1864）立野領主 清水親春が 慕義塾を長徳寺境内に創設
本堂再建	平成13年（2001）3月に落慶法要

